

# 平成31年度中学入試

## [前期B 入試]

### 国語科 問題

#### じこう 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2. この問題冊子は、表紙を含めて20ページあります。

試験中に、印刷が見づらかったり、ページが乱れたり抜け落ちていることに気づいた場

合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。

4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[前期B 入試] 受験番号 \_\_\_\_\_

金蘭千里中学校

①次の文章を読んで、後の間に答えなさい。

学校では、クラスの友だち同士で小グループを作つて、休み時間などはいつも一緒に活動するということがよく見受けられます。その時よくありがちなのが、親しいはずなのに、その場にいない友だちの悪口を言うということです。

これは今に始まつたことではありません。社会学の考え方で、スケープゴートの理論というものがあります。「スケープゴート」というのは、そもそもは旧約聖書の中に出てくる、贖罪用の山羊のことです。旧約聖書の時代には、人間の罪を山羊に背負わせて荒地に放す、という宗教的な儀式がありました。つまり生贊ですね。そこから転じて、人々の憎悪や不安、猜疑心などを、一つの対象（個人や集団）に転嫁して、矛先をそちらにそらせてしまうことを、「〇〇をスケープゴートにする」などと言います。

さて、親しい友だちははずなのに、なぜこんなことをするのでしょうか。

これは第三者（＝ここにいない、私とあなたそれ以外の人のこと）を排除することによつて、その場の「あなたと私の親しさを確認しあう」ということなのです。A子さんとB子さんは、その場の親しさを再確認しているわけです。こういうことは、よくあることなのです。

けれど、①こうした振舞いは、この二人に新たな不安を引き起こしがちなのです。その不安というのは、今はいつ自分が排除される側にまわるかわからないということです。この結果またまた不安が増幅して、ますます固まるわけです。

学校の先生の立場から見ると、「あの子たちはいつも一緒にいてすごく仲がいいんだな」なんて思える集団でも、よくよく話を聞いたり、様子をうかがつてみると、じつは非常に緊張した状態でいつも一緒にいるという場合があります。もちろん別に仲が悪いわけではなくて、一緒にいて楽しいこともあるのだけれども、いつのまにか「そこにいないと不安になるから、陰口をたたかれるのが嫌だから一緒にいる」という状態におちいつている可能性

もあるのです。

本当は幸せになるための「友だち」や「親しさ」のはずなのに、その存在が逆に自分を息苦しくしたり、相手も息苦しくなつてしたりするような、妙な関係が生まれてしまうことがあるのです。

私はそれを「②同調圧力」と呼んでいます。

私たちが目の当たりにしている同調圧力は、現代における新たな共同性（これをネオ共同性と呼んでみます）への圧力なのではないかなと私は考えています。日本社会はハード的部分（＝精神面や価値観）ではまだマラ的な同質性の関係性を近代化したのかもしれません、ソフト的部分（＝物的環境や法的制度）では十分引きずっているような気がします。しかしそうしたソフト的部分を支えるはずの現実的根拠が、マラとイエの現実を支えた伝統的社會とはもはや違つていています。かつてのマラ的な伝統的共同性の根拠は、生命維持の相互性でした。貧しい生産力を基盤とした昔の庶民の生活においては、お互いに支えあって共同的なあり方をしていなければ生活が成り立たなかつたのです。ですから伝統的なマラ的共同性は、「出る」「③」は打たれる」「④長いものには巻かれよ」といったことわざが示すような同調圧力が強い半面、お互いの生活を支えあい助け合うという相互扶助の側面も大きかつたのです。

しかし⑤現代におけるネオ共同性の根拠にあるのは、「不安」の相互性です。多くの情報や多様な社会的価値観の前で、お互い自分自身の思考、価値観を立てるることはできず、不安が増大している。その結果、とにかく「群れる」ことでなんとかそうした不安から逃れよう、といった無意識的な行動が新たな同調圧力を生んでいるのではないかと考えられるのです。

同調圧力のような形でお互いに消耗しあうことが、なるべく無いような友だちの作り方が、そろそろ必要なではないかと思います。

悩んでいないで、そういう同調圧力、あるいはいじめる／いじめられるという関係から、少しでも抜け出す発想を持とうと考へることです。具体的にどうするかはさまざまケースがあるので、そのケースに即して考えなくてはなりませんが、しかし発想の基本、関係を考え直す原理的な考え方というものはあります。

それが私がとくに強調したい「⑥一性」から「⑦一性」へという考え方です。

「⑦一性」を考えていくために、「⑥一性」の人間関係とはどういうものかを再確認しておきましょう。

小学校に上がるころ、ほとんどの人が聞いたり歌つたりした記憶があると思いますが、「一年生になつたら」という歌があります。「一年生になつたら、友だち百人できるかな」という歌詞なのですが、あれつてけつこう強烈なメッセージですね。小学校の一年生になつたら、友だちを百人作りたい、あるいは百人友だちを作ることが望ましいのだという、暗にプレッシャーを感じた人も多いのではないかでしょうか。

学校というのは、とにかく「みんな仲良く」で、「いつも心が触れ合つて、みんなで一つだ」という、まさにここで私は「幻想」という言葉を使ってみたいのですが、「一年生になつたら」という歌詞に象徴されるような「友だち幻想」というものが強調される場所のような気がします。けれど私たちはそろそろ、そうした発想からアガイホウされなければならないと思っているのです。

⑧クラスはみんな仲良くという考え方には、昔はたしかに現実的な根拠があつたのです。

なぜなら、小学校はだいたいムラに一つだつたからです。

「自然村」といわれる農村社会の概念があります。行政村と対比される概念で、だいたい室町時代から江戸時代までの間に人びとが自然に集まつてできた集落のことですが、明治時代になつてこの自然村を基盤に小学校が建つてくるわけです。そうすると、そこは代々家族ぐるみで顔見知りの子供たちが集まることになります。お互いの親同士も顔見知りで、場合によつては何代も前から、「あの家はこうで、こつちの家はああで」と知つていて、「あの家から今度は次男坊が入ってきた」というような、学校を支える地域ぐるみでの濃密な関係がはじめからできていたのです。

そういう中で学校やクラスの運営がされていったわけですが、近隣ネットワークのあり方が今とは全然違うわけです。昔の濃密な近隣の支えがあつてはじめて、「クラスみんなが仲良くなれるかな」という状態だったのです。しかし、とりわけ一九八〇年代以降は、都市部ばかりではなく地方においてもそういう支えがほとんどなくな

つてきて、地域 자체が単なる偶然にその場に住んでいる人たちの集まりになっています。同じ地域から学校に通つてきていると言つても、今でもついつい「クラスは運命共同体だ」という発想になりがちなのだけれども、子どもたちは単なる偶然的な関係の集まりだとしか感じていらない場合が多いのです。

こうした状況の中で、クラスで本当に「こいつは信頼できるな」とか、「この子といふと楽しいな」という、気の合う仲間とか親友というものに出会えるということがあれば、それはじつは、すごくラッキーなことなのです。そういう友だちを作つたり出来たりすることは当然なのではなくて、「とてもラッキーなこと」だと思つていたほうが良いことは多いような気がします。

そういう⑨偶然の関係の集合体の中では、当然のことですが、気の合わない人間、あまり自分が好ましいと思わない人間とも出会います。そんな時に、そういう人たちとも「並存」「共在」できることが大切なのです。

そのためには、「気に入らない相手とも、お互い傷つけあわない形で、ともに時間と空間をとりあえず共有できる作法」を身につける以外にないので。大人は意識的に「傷つけあわず共在することがまず大事なんだよ」と子どもたちに教えるべきです。「みんな仲良く」という理念も確かに必要かもしれませんのが、今の現実に即して新たに求められている教育だということです。

子どもたちに対するこうした教育の方向性はbカティでも必要なことだと思います。

子どもが「〇〇ちゃんつていうムカつくやつがいる」と家でふと漏らしたときに、「その子にもいいところがあるでしよう。相手のいいところを見てこつちから仲良くする努力をすれば、きっと仲良くなれるよ」というのは一見懐の広い大人の意見ですよね。

その理想どおりに運ぶこともあるでしょうが、現実にはなかなか難しいかもしれません。

こんなときは「もし気が合わないんだつたら、ちょっと距離を置いて、ぶつからないようにしなさい」と言つたほうがいい場合もあると思います。

これは「冷たい」ではありません。無理に関わるからこそ、お互い傷つけ合うのです。ニーチェという哲学者の言葉で、「<sup>⑩</sup>愛せない場合は通り過ぎよ」という警句があります。あえて近づいてこじれるリスクを避けるとい

う発想も必要だということです。

二一チエは、「ニヒリズム」という言葉で有名な哲学者ですが、もうひとつ「ルサンチマン」というキーワードに焦点を当てて、ものを考えた人です。ルサンチマンとは、「恨み、反感、嫉妬」といった、いわば人間だれもが抱きうる「負の感情」のことです。

誰でも、自分がうまくいかなかつたり、世の中であまり受け入れられなかつたりしたときに、自分の力が足りないんだと反省するよりも、c オウオウにして「こんな世の中間違っているんだ」と考えたり、うまくいつていふ人たちを妬んだりするものです。そんな感情を自覚してやりすごすことが大切です。二一チエは、「ルサンチマンについて陥つてしまふのが人間の常なんだけれども、そこからどう脱却できるか」ということを示唆している哲学者です。やりすごすという発想が、非常に大事なことだと私は思っています。

自分ができないことがやすやすとできる人、自分よりd ヨウシにめぐまれていたり、人から愛されている人ーーそういう人を見ていると心がざわざわしてきて落ちつかなくなる時がありますんか。

人が生きていこうえで、ルサンチマンに絡め取られそうになる場面はたくさんあります。人間の生にとつて必要な負の感情として、ルサンチマンには人間の本質的な何かがあるのです。ルサンチマンは誰にでも起こりうる感情です。しかしルサンチマンにとらわれすぎたり、とらわれ続けていたりすると、結局のところ、自分自身の「生」の可能性を閉ざしてしまうことにつながります。だからこそ、それにとらわれ続けないことが大切なのです。

失恋

失恋しても気持ちの切り替えができず、いつまでも引きずつているとストーカーになってしまいます。好きな他者から自分の好意を否定されれば誰でも落ち込みますし、恨みに思うこともあるかもしれません。しかし、そこから何とかして抜け出していかないと、その後の人生は実りの少ないものになってしまいます。最近の傾向として優秀な生徒や、かわいくて目立つ子がいじめのターゲットにされるケースが増えているというのも、そうした「卓越した何か」を目の当たりにしたときに、自分の中にそうした卓越性を感じられない多くの他の子どもたちのルサンチマンが、e ゲンインの根っこにあることが多いようです。

自分がそんなルサンチマンの感情に囚われがちなときは「自分は自分、人は人だ」という、ちょっと突き放したようなものの見方をしたほうがいいと思います。「私とは関係ないでしょ」ということですね。関係しようと、関係しようとするから、話がこんがらがつてくるのです。

「クラスはひとつ、みんないつしょ」というような幻想が強すぎると、人と少し違う子がルサンチマンのターゲットになつてしまふことがあるのです。体育祭や文化祭など、学校行事の中で何か目的があるときに、f キカングンティで団結して一生懸命になれることは、とてもいいと思います。でも、日ごろはやはり「あまり濃密な関係を学校空間の中で求めすぎない」ということが、じつは大事なのではないかと思っています。

(菅野仁『友だち幻想』より一部改めたところがある)

(一) 太線部 a ~ f のカタカナを漢字に直しなさい。

- a 「カイホウ」 b 「カティ」 c 「オウオウ」
- e 「ゲンイン」 f 「キカングンティ」
- d 「ヨウシ」

(二)

傍線部  
選び

記号で答えなさい。

ア 第三者を憎しみの対象とすることで結束を固めるという人間の振舞いは、生物学的に証明されている人間の本質的な性質が背景となつていてる。  
イ その場にいない誰かを排除するという振舞いは、たとえば学校という限られた空間で本当に親しい友人と出会えるのかという疑問が背景となつていてる。  
ウ いつも決まつた友人と一緒にいることで、眞の友情を確認しあうという振舞いは、いつ自分が悪口を言われるかわからないという不安な気持ちが背景となつていてる。  
エ その場にいない人間に憎悪を向けるという振舞いは、とりあえずはその場にいる人間同士で、仲の良さを感じあいたいという思いが背景となつていてる。  
オ 不安や憎悪を第三者にむけることでしすめるという、宗教的な振舞いは、人類が築いてきた日常的な営みが背景となつていてる。

(三)

傍線部②「同調圧力」とあるが、これを感じるときの例として適切でないものを次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 一人だけ浮くのはいやなので、なるべく周りに合わせて、クラスではやつている言葉を使って会話をするとき。  
イ 家で本を読みたいが、何を言われるかわからないため、近所の人たちの立ち話からなかなか抜け出せないとき。  
ウ まだ話したことのないクラスメートと何を話せばいいかわからず、気まずい空気になつてしまつたとき。

。

エ 花屋に行つた時、店員さんにすすめられた花を買つてしまつたが、実は全く自分の好みではなかつたとき。

オ 仲良しグループの子は皆メールの返信が早いので、忙しくてもメールが来たら、自分もすぐに返信をするとき。

(四) 一 ③ 】にはどんなことばが入るか、ひらがなで答えなさい。

(五) (イ) 傍線部④「長いものには巻かれよ」の類語である次の四字熟語の一【i】【ii】にはどんなことばが入るか、ひらがなで答えなさい。

ア 属付 【i】 雷【らい】 【ii】

ア 属イ 言ウ 風エ 同オ 実カ 音キ 和ク 異

(口) ことわざと似た意味の四字熟語は他にもある。次のことわざの類語として考えられる四字熟語はどれか、次のア～クの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(X) 他山の石

(Y) へそで茶をわかす

(Z) 口八丁手八丁

力ア  
竜頭蛇尾  
惡口雜言  
キイ  
笑止千萬  
ア  
カ  
ウ

巧言令色  
一石二鳥

エ 反面教師

オ 針小棒大

(六) 傍線部⑤「現代におけるネオ共同性」とあるが、この説明としてもつとも適切なものを、次のア～オの中

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生命を維持するためのものではなく、情報や価値観があふれた世の中で、不安から逃げるためのものである。

イ 日本社会のハード的部分がまだ近代化していなかつた頃の、伝統的なムラ的性質をいまだに引きずるものである。

ウ 自分の思考がぶれそうになる不安から逃れるために、人々が協力し支えあっていく中で確立したものである。

エ 情報過多な世の中で日常生活を作り立たせるため、互いに有益な情報を交換する場面で必要不可欠なものである。

オ 安心して情報を取捨選択し、自分の価値観を確立することができるので、現代ではなくてはならないものである。

(七) ⑥【】⑦【】を補うのにもつとも適切なことばを、それぞれ次のア～カの中から一つ選び、記号で

答えなさい。(同じ記号をくり返し使つてはいけない)

ア 偶然 イ 並存 ウ 普遍 エ 同質 オ 有限 カ 関連

(八) 傍線部⑧「クラスはみんな仲良くという考え方には、昔はたしかに現実的な根拠があつた」とあるが、「現実的な根拠」の説明として最も適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小学校はだいたい村に一つであり、通う生徒はもとから知っている人物ばかりだったという根拠。

イ 明治時代の教育は厳しく、友だちをたくさん作り、みんなと仲良くすることが当然だったという根拠。

ウ 昔の地域は学校を支える事にだけ積極的で、子どもが仲良くできるよう常に働きかけたという根拠。

エ 近隣ネットワークと行政の支援を基盤に、小学校のクラス運営がうまくなされていったという根拠。

(九) 傍線部⑨「偶然の関係の集合体」と同じことを述べている部分を、二十字以上二十五字以内で探し、最初と最後の三文字を記しなさい。

(十) 傍線部⑩「愛せない場合は通り過ぎよ」とあるが、これを言い換えた語句を、本文の中から五字で抜き出しなさい。

(十一) 本文中には「ルサンチマン」という言葉がくり返し出てくるが、この言葉の説明としてもつとも適切な

ものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生きていくためには「ルサンチマン」を原動力とする場面もあり、人間である限りは常になくてはならない感情であるといえる。

イ 「ルサンチマン」を感じると、心が落ち着かなくなり、生きていく目標を失ってしまうこともあるため、大変危険な感情であるといえる。

ウ 人間であれば誰もが「ルサンチマン」を感じる可能性はあるが、それを感じる状態に陥り続けるのは、よくないことである。

オ エ 優れた他人を目の当たりにした時、人は「ルサンチマン」を抱きがちだが、その感情から目をそむけないでいることが大切である。

周囲の人間とお互いに理解しあい、価値観の差をなくしていくことが、「ルサンチマン」を感じずにする唯一の方法である。

(十二) 次のア～オの中で、本文の内容として合っているものには○、合っていないものには×をつけて答えなさい。

ア 昔は通用した「みんな仲良く」という発想は、もはや現代では通用しなくなつてきており、仲良くで

きない人が現れたら、お互い傷つかないよう距離を置いて生きていくことが大切である。

イ どんな人とも親しい関係を築くためには、他人と協力する方法を学ぶことが何より必要で、学校行事などには一生懸命に取り組まなければならない。

ウ 現代では、自分の思考や価値観を立てることができず、一人でいることに不安を感じる人が多いが、

それが同調圧力を加速させる要因の一つとなつていて。

エ 嫉妬や反感を覚えてしまうのは人間の本質であるが、その感情にとらわれ過ぎてしまわないよう

どん時でも他人を突き放したものの見方をするべきである。

オ 自分も相手も幸せになるための友だち関係を作っていくには、傷つけあうような人間関係を見直し、

気の合わない人とも積極的に仲良くできる方法を探つていかなければならぬ。

② 次の文章は、明治期に書かれたものである。主人公の岡本が少年時代を回想しているが、それは志村と絵の腕を競うといった内容である。次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

絵を好かぬ子供はまず少ないとして、その中でも自分は子供の時、何よりも絵が好きであった。

好きこそ（ A ）の上手とやらで、自分も他の学科の中、絵では同級生の中で自分に及ぶものがない。絵と数学となら、誰でも来いなんて、自分も大いに得意がつっていたのである。しかし得意ということは多少競争を意味する。自分の絵の好きなことは全く天性といつてもよからう、自分を独りで置けば絵ばかり描いていたものだ。独りで絵を描いているといえばとてもおとなしく聞こえるが、そのくせ自分ほど腕白者は同級生の中にはないばかりか、校長が持て余してしばしば退校をもつて嚇したのでも、全校第一ということが分かる。

全校第一、腕白でも数学でも。しかるに天性好きな絵では全校第一の名誉を志村という少年に奪われていた。この少年は数学はもちろん、その他の学力も全校生徒中、第二流以下であるが、絵の天才に至つては全く並ぶものがないので、わずかに（注 1 ）星を摩そうかともいわれる者は自分一人、その他は、ことごとく志村の天才を崇拜しているばかりであった。ところが自分は志村を崇拜しない、今に見ろという意気込みでしきりと励んでいた。

元来志村は自分よりか歳も兄、級も一年上であったが、自分は学力優等というので、自分のいるクラスと志村のいるクラスとを同時にやるべく校長から特別の処置をされているので、自然志村は自分の競争者となつていた。

① しかしながら全校の人気、校長教員を始め何百の生徒の人気は、志村に傾いていた。志村は色の白い柔軟な、女にしてみたいようなおとなしい少年、自分は美少年ではあつたが、乱暴な傲慢な、喧嘩好きの少年、おまけにいつもクラスの一番を占めていて、試験の時は必ず最優等の a セイセキを得るところから、教員は自分の高慢が癪に触り、生徒は自分の压制が癪に触り、自分にはどうしても人気が薄い。そこでみんなの心持ちは、せめて絵でなりと志村を第一として、岡本の（ B ）つ柱を挫いてやれというつもりであった。自分はよくこの消息を理解していた。そして心中ひそかに不平でならぬのは志村の絵が必ずしもよく出来ていない時でも校長をはじめみんながこれを激賞し、自分の絵はたしかに上出来であつても、それほど賞めてはくれないことである。子供ながら自分は（ X ）というものを悪んでいた。

ある日学校で生徒の製作物の展覧会が開かれた。その出品はおもに習字、図画、女子は仕立物等で、生徒の父

兄姉妹は朝からぞろぞろと押しかける。取りどりの評判。製作物を出した生徒は（C）が（C）でない、皆そわそわして展覧室を出たり入つたりしている。自分もこの展覧会に出品するつもりで画用紙一枚に大きく馬の頭を描いた。馬の顔を斜めに見たところで、むろん少年の（D）には余る画題であるのを、自分はこの一挙によつてぜひ志村に打ち勝とういう意気込みだから一生懸命、学校から家に帰ると一室に籠もつて描く、手本をもとにして生意氣にも実物のbシヤセイを試み、幸い自宅から少し離れた畑の中に馬屋があるので、何度もそこを通つた。輪郭といい、陰影といい、運筆といい、自分は確かにこれまで自分の描いたものはもちろん、志村が描いたものの中でこれに比べ出来はないと自信して、これならば必ず志村に勝つ、いかに②不公平な教員や生徒でも、今度こそ自分の実力に圧倒されるだろうと、大勝利を予期して出品した。

出品の製作はみんな自宅で描くのだから、誰も、誰が何を描くのか知らない。また互いに秘密にしていた。特に志村と自分は互いの画題を最も秘密にして知らさないようにしていた。であるから自分は馬を描きながらも志村は何を描いているかという問いを常に抱いていたのである。

③さて展覧会の当日、恐らく全校数百の生徒中もつとも胸を轟かして、展覧室に入った者は自分であろう。图画室はすでに生徒及び生徒の父兄姉妹でいっぱいになつていて、そして二枚の大画（今日のいわゆる大作）が並べて掲げてある前は最も見物人が集つている。一枚の大画は言わずとも志村の作と自分の作。

一見自分はまず度肝を抜かれてしまつた。志村の画題はコロンブスの肖像だつたとは！　しかも（注2）チヨークで描いてある。元来学校では鉛筆画ばかりで、チヨーク画は教えない。自分もチヨークで描くなど思いもつかんことであるから、絵の善し悪しはともかく、まずこの一事で自分は驚いてしまつた。その上、馬の頭と（注3）鬚面を被う堂々たるコロンブスの肖像とは、一見まるで比べものにならんのである。かつ鉛筆の色はどんなに巧みに描いても到底チヨークの色には及ばない。画題といい色彩といい、自分のは要するに子供が描いた絵、志村のは本物である。技術のうまい下手は問題ではない、（注4）みんなの展覧に供すべき製作としては、志村のは本物である。

④いかに我慢強い自分も自分がいいとは言えなかつた。（注5）さなきだに志村崇拜の連中は、これを見て歎呼している。「馬もいいがコロンブスはどうだ！」などという声があつちでもこつちでもする。

自分は学校の門を走り出た。そして家には帰らず、すぐ田んぼへ出た。止めようと思うても涙が止まらない。くやしいやら情けないやら、前後（ムチュウ）で川の岸まで走つて、河原の草の中にぶつ倒れてしまつた。

⑤足をばたばたやつて大声を上げて泣いて、それで飽き足らず起き上がってそこらの石を拾い、四方八方に投

げ付けていた。

こう暴れているうちに自分は、あいつの間にチョーク画をならつたろう、誰があいつに教えたろうとそ  
ればかり思い続けた。

泣いたのと暴れたのでいくらか胸がすくとともに、しだいに疲れで来たので、いつかそこに寝てしまい、自分  
は（注6）蒼々たる大空を見上げていると、川瀬の音が（注7）淙々として聞こえる。若草を薙いで来る風が、  
（注8）得ならぬ春の香を送つて顔を掠める。いい気持ちになつて、自分はしばらくじつとしていたが、突然、  
⑥ そうだ自分もチョークで描いてみよう、そうだという一念に打たれたので、そのまま飛び起き急いで家に帰り、  
父の許しを得て、すぐチョークを買い整え画板を引っ提げすぐまた外に飛び出した。

（国木田独歩「画の悲しみ」一部改めたところがある）

（注1）墨を摩す：匹敵する。

（注2）チヨーク：今のクレヨンに似た画材。

（注3）髭鬚面を被う：ヒゲが顔一面にはえている様子。

（注4）みんなの展覧に供すべき製作：みんなに見てもらうのにふさわしい作品。

（注5）さなきだに：そうでなくてさえ。

（注6）蒼々：真っ青な様子。

（注7）淙淙：水がさらさらと流れる音。

（注8）得ならぬ：なんとも言えないほどすばらしい。

（一）太線部 a ↗ c をそれぞれ漢字に直しなさい。

a 「セイセキ」 b 「シャセイ」 c 「ムチュウ」

（二）（ A ↗ ↘ D ↗ ）に入るもつとも適切な言葉を、それぞれ漢字一字ずつで書きなさい。ただし、（C）  
は二カ所に同じ字が入ります。

（三）囲み文字競争者を四文字の外来語に置き換えるさい。

(四) 主人公岡本の説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 岡本は数学が大好きでよくできたが、志村にだけはかなわなかつた。  
イ 岡本は数学では天才的な実力を發揮したが、絵の腕は平凡であつた。  
ウ 岡本はいつも絵ばかり描いていたが、数学や国語の方が良くできた。  
エ 岡本は絵が大好きで実力もあつたが、志村にだけはかなわなかつた。  
オ 岡本は数学も絵も大好きでよくできたが、志村にはかなわなかつた。

(五) 傍線部①「しかしながら全校の人気、校長教員を始め何百の生徒の人気は、志村に傾いていり」とある

が、その理由として適切でないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 志村は柔軟でおとなしい少年だから。

イ 岡本は乱暴で傲慢な少年だから。

ウ 岡本は学力優秀で高慢な少年だから。

エ 志村は学力優秀で絵のうまい少年だから。

オ 岡本は腕白で喧嘩好きの少年だから。

(六) 「X」に入る適切な言葉を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 教員 イ 生徒 ウ 絵 エ 人気 オ 数学

(七) 傍線部②「不公平な」とあるが、岡本が不公平だと思っているのはどのようなことか。それが具体的に書かれている部分を六十九字で抜き出し、最初と最後の四文字を書きなさい(句読点も一字に数える)。

(八) 傍線部③「さて展覧会の当日、恐らく全校数百の生徒中もつとも胸を轟とどろかして、展覧室に入つた者は自分であろう」とあるが、その理由としてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の描いた絵が志村の描いた絵よりもはるかにすぐれていることをみんなに示すことが出来るので。

イ 自分の描いた絵が志村の描いた絵よりも本当にうまいのかどうか、みんなの評価が気になつていたので。

ウ 自分の描いた絵は志村の描いた絵に勝つとは思うが、みんながそれを認めてくれるか心配だったので。

エ 自分は馬を描いているけれども、志村は何を描いているのかという問い合わせを知ることが出来るので。

オ 自分が精一杯描いたように、他の生徒たちも全力を尽くして作製した作品を見る事ができるので。

(九) 傍線部④「いかに我慢強がまんい自分も自分の方がいいとは言えなかつた」とあるが、その理由として適切なものを次のア～オの中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 志村の絵はチョークで描いているのに對し、自分の絵は鉛筆で描いているから。

イ 志村の絵は人気がとても高いのに對して、自分の絵はまったく人気がないから。

ウ 志村の絵は先生が手伝つたものなのに對して、自分の絵は一人で描いたものだから。

オ 志村の絵が本物であるのに対しても、自分の絵は絵空事を描いた偽物にせものであるから。

志村の絵がコロンブスの肖像画であるのに対しても、自分の絵は馬の頭だから。

(十) 傍線部⑤「足をばたばたやつて大声を上げて泣いて、それで飽き足らず起き上がってそこらの石を拾い、四方八方に投げ付けていた」とあるが、その理由としてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選

び、記号で答えなさい。

ア 絵の実力では志村に負けていなかつたのに、志村の絵がよいと言う人が多かつたので。

イ 絵の実力で志村を圧倒してやろうと思つていたのに、志村の方が一枚上手だつたので。

ウ 志村が学校では教えないチョーク画という卑怯なやり方で自分に勝つたので。

エ 志村の絵の技術は自分よりもはるかにすぐれていると認めざるをえなかつたので。

(十一) 傍線部⑥「そうだ自分もチョークで描いてみよう」とあるが、岡本がこのような気持ちになつた理由と

して、もつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 泣いたり暴れたりしているうちに気持ちがすつきりしたことや父親からチョーク画をやる許しを得た  
ので。  
イ 泣いたり暴れたりしているうちに勝とうが負けようがたいした問題ではないという気持ちになつたの  
で。  
ウ 泣いたり暴れたりしているうちに気持ちがすつきりしたことや春の自然に包まれて心が癒やされたの  
で。  
エ 泣いたり暴れたりしているうちにすっかりお腹がすき、少し眠るとさっぱりとした気持ちになつたの  
で。  
オ 泣いたり暴れたりしたことや春の太陽の暖かさにすっかりいい気持ちになつて寝入つてしまつたの  
で。

(1)

Z	
Y	ii
X	i
⑥	最初

⑦
---

最後

ア

B  
bC  
c

D

E  
eF  
fG  
gH  
hI  
iJ  
j

才	
才	
才	
才	

(2)

A	a
才	b
才	c
才	d
才	e
才	f

受験番号	得点

(1)

前期 B  
国語

⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	④	④	②	⑧	⑥		⑤	⑤	④	④	④	⑥	⑤	⑤	②	④	④	⑫
( ③ × 2)					( ② × 4)	( ② × 3)		( ① × 5)			( ③ × 2)		( ① × 5)		( ② × 2)		( ② × 6)					